

＜報 告＞

台湾の人間仏教について ——仏光山寺を中心に——

釋 依 昱

人間仏教の提唱

仏教は、世界の諸大宗教の中で、歴史が最も長く、影響される人口も最も多い。それが人に与える印象は古いものであるが、今日まで伝わってきて、何故だか新しく感じられ、信仰する人が段々増えて、特に、東方伝統文化中での普及は、著しいものがある。

その他の世界的な宗教と違う処は、仏教の伝播は平和的で、過去に宗教戦争を起こしたこともないし、宗教迫害もなかった。一切は、全て自発的な発心、自覚、自省で、外在の強制と暴力がなかった。この一つの自省、自覚、自浄の清流も又、仏教を推進して、違った民族群に進出し、違った文化思潮と共生し融合しつつある。

現実の人生問題に関心を持ち、人生の品位の向上、人心の浄化を肯定し、全人類の完全で世界平和に趨向出来るのは、仏教の現代化への共通点に向かうことである。現代社会と実際生活の需要に順応出来る様に、実質の行動歩調を執り、只の元来の誦経祈福や閉関自守はなく、積極的に世間に入り、世間に参画する。寺院僧伽ばかりでなしに、人類の進歩を促進し、人間関係を改善し、仏教の極楽浄土と、未来の大同社会を一体とし結合する。この様な一つの時代性、適応性、円融性を得る時代思潮を我々は「人間仏教」と称するものである。日本の仏教界、或いは、学界にはこの言葉はない。日本での勉強期間、かつて、駒澤大学で中国仏教史を教えていた鎌田茂雄教授に教え

を請うと、「こういう言葉を提出した人は無い。こういった思想はあるが人間仏教という言葉は無い！」とおっしゃった。

ところが、元来「人間」の中国文の意味となると、知っている人は少ない。鎌田茂雄教授は1990年1月3日、仏光山で開催した仏教学術会議で発表した主題演説で次のように述べている。「人間仏教、この主題は、日本人にとっては、余り聞かない言葉である。これは偉大なる太虚が提唱した思想で、現在私が知っているその意義としては、仏教は須らくこの現実の社会において活躍すべき宗教であるということだ」。

「人間仏教」の遂行と実践は仏陀の教化衆生の本懐に符合している。更に仏教の慈悲寛容、仏教の応世本質、仏教の包容異己、人間への最大機能の發揮等を言い表わしている。

〔附記〕この報告は、2006年8月23日に同朋大学で行なわれた例会「台湾の人間仏教について」で配布された講演要旨を編集したものです。